【愛宕中学校区】

「学びのプランを基盤とした学び合う児童生徒の育成を目指して」
地域に根ざす様々な交流活動の実践【交流活動】

1　はじめに

望む児童生徒像の共有化を図り，小学校段階から取組を重点化していくことにより，地域で児童生徒が成長し合えることを目指した。そこで，一貫教育の充実を図るため「挨拶・返事･読書･黙働動･校歌」を重点５項目に掲げて様々な児童生徒間及び教員間交流活動を実践した。

2　本学校区における小中一貫教育に係る取組

(1)　巡回あいさつ運動の実施〈年４回〉

開催校に児童生徒が集合する「巡回挨拶運動」を実施した。この取組は，職員にとっても他校の様子を知る機会となり貴重な取組となった。

(2)　愛宕中学校生徒による「学びの広場」の支援＜５日間＞

愛宕中生がサポーターとして「学びの広場」に参加し４，５年生の支援に当たった。児童達は問題へのつまずきについて聞きやすく，また中学生に称賛された時の笑顔が印象的であった。

(3)　愛宕中学校区職員による「学び合い」理論研修＜８月３日＞

牛久市教育委員会指導課指導主事　豊島　正臣先生を講師として招聘し，「学び合い」の理論研修や３校の職員で小グループを編成して協議を行い，「学び合い」の他に児童生徒の実態による授業展開の工夫や疑問，悩みについて共通認識することができた。

「合同あいさつ運動」

(4)　小学校教職員による中学校「学びの広場」での支援＜２日間＞

数学科の免許を有する守谷小職員３名郷州小職員１名が愛宕中学校へ出向き，サポーターとして参加した。本校卒業生が学習に取り組む姿を直接確認することができた取り組みであった。

(5)　児童生徒の作品交流

新たな取り組みとして，愛宕中１年生の学習ノートの写しを各小学校に掲示した。この取組は，上級学校進学直後の学習への不安解消や進学への期待にも有効と考えて実施した。

3　保幼小の円滑な接続に向けて【郷州小学校】

本校では，毎年隣接するみずき野幼稚園との交流活動を行っている。年長児と５年生の交流を軸に置き，次年度に向けて，入学への期待と最上級生としての自覚を育むことを目的として実施した。

(1)　幼児･児童の交流活動

①　みずき野幼稚園でのハロウィンの飾りづくり＜１０月１４日＞

５年生の児童が幼稚園を訪問し，ハロウィンに向けての飾りづくり･読み聞かせのお手伝いをした。幼稚園の先生からの説明後，園児の活動を支援するような形で交流することができた。５年生は常に園児に声かけしながら活動に取り組んでおり，始めはお互いに緊張をしていたが，後半には笑顔で活動する姿が見られた。

②　ハロウィンパレードでの交流＜１０月２９日＞

園児がハロウィンの仮装をして，本校の校舎前をパレードした。飾り作りで交流した５年生が校門付近で園児を迎え，一緒にパレードに加わった。

③　ふれあい交流会＜１月１２日＞

５年生と幼稚園の年長児が，ゲームや遊びを中心とした交流活動を行った。遊びを通してふれあうことで，互いの関係がより深まったようである。

④　学校見学＜３月１日実施予定＞

幼稚園の年長児を対象に学校見学会を行っている。１年生は，園児と一緒に授業を受けたり，学校生活や学校行事について説明したりしている。授業後には学校探検を行う予定である。

(2)　職員間の交流(保幼小連絡会議)＜７月１５日＞

３つの保育園･幼稚園より職員３名が来校し，１年生の授業参観後に，本校１学年担任及び関係職員とともに懇談を実施した。幼稚園の指導方針や入学前の児童の様子，入学後の児童の様子や小学校での教育活動等について，情報交換や協議を行った。

4　期待が膨らんだ小小・小中学校交流活動の実践

(1)　第１回交流教室＜１１／１７＞

守谷小・郷州小の６年生が愛宕中で１日学習・生活をした。３年生による合唱披露や２年生案内での授業参観，１年生と合同での英語活動，部活動見学，小中合同での黙働，更には，守谷小，郷州小合同でｸﾞﾙｰﾌﾟを作り給食や大縄を行った。たくさんの活動を盛り込んだ交流教室だったが，小学校の先生方の協力もあり，スムーズに活動できた。何より交流活動の際の小中学生の楽しそうな笑顔が印象的であり，有意義な時間となった。

(2)　第２回交流教室・新入生説明会＜１／２９＞

第２回の交流教室では，午後から小学生が愛宕中に来校した。５校時は「愛宕中の校歌を歌おう」と題し，入学式に皆で校歌を歌えるようにと中学１年生が小学生に校歌を教える活動を行った。中学生は朝や放課後，校歌の練習をしたり，歌詞カードを作成したりとクラスごとに工夫していた。授業の最後は，体育館に小中学生の歌声が響き，心温まる交流ができた。６校時は，新入生と保護者に向けての説明会を行った。愛宕中の行事やきまりの説明や部活動の紹介など，生徒が中心となり準備し発表した。また，放課後の部活動体験では，小中学生がともに楽しそうに活動する姿が見られた。

英語で生き生きと表現する児童生徒の育成を目指して【外国語活動の実践】

１　はじめに

愛宕中学校区においては，小学校高学年より Moriya communication challenge や Phonics 学習を継続的に取り扱っている。これらの活動を一貫して行うことで，英語の学習が input に留まらず，進んで英語を output し，英語を使って生き生きとコミュニケーションを図る児童生徒の育成を目指している。

２　各校の具体的な取組

(1)　自然なコミュニケーションの習得を目指して【守谷小学校】

本校では，自然な会話によるコミュニケーションを図るために，全学年において授業冒頭に簡単な日常会話の Q & A を取り入れている。毎回繰り返し学習することで，基本的な会話の習得を目指している。具体的な活動内容としては，低学年は，簡単な挨拶に加え，「What do you want to be?」「I want to be ~」といった会話の学習をしている。中学年では，「What ~ do you like?」「My favorite ~ is ...」や「What are you good at~?」などの会話を組み合わせて，自分の考えを表現する 1~2 分程度の会話練習をしている。高学年になると，「Do you have any plans this summer vacation?」「Have you ever been to ~?」など，さらに情報量の多い会話文の練習をしている。どの児童も意欲的に取り組んでいる様子が見られる。また，愛宕中学校が取り組んでいる「学び合い」や input･output の活動も意識して取り入れている。分からない表現は友達や ALT に気軽に聞くことができる環境づくりに取り組み，新しい会話を学習するときには，リズムに合わせたり，ジェスチャーを入れたり，学年に合わせた input･output 活動を展開している。また，小中一貫教育の関連事業として，１２月に県南地区中学校専門指導員による公開授業を本校６年生対象で実施し，Readers Theater の学習法で，Grandfather's Clock の音読劇を披露した。

(2)　英語で楽しくコミュニケーションを図る児童の育成を目指して【郷州小学校】

本校では，思考力や表現力を高めるための言語活動の充実を図るために，市一貫教育学習スキルの定着を目指したり，学び合いを推進したり，ユニバーサルデザインを取り入れた授業作りを行ったりしている。そのため，自分の考えを進んで発表したり，さまざまな表現方法で自分の思いを伝えたりすることができるようになってきている。

授業では，全学年共通して Moriya communication challenge を活用した会話を実施し，学年が上がるにつれ徐々に会話文の数を増やすようにしている。低学年では歌や絵本の読み聞かせを取りいれ英語の授業が楽しいと児童が感じられるように意識している。中学年では，あらゆるミニゲームを通して，英語を自然と使って進んで話せるような授業実践を心がけている。高学年ではリズムに合わせた基本文の練習，ミニカードを使った Phonics 学習，Hi,friends の映像資料を活用した外国文化の説明など英文法や文字，外国の文化にも慣れ親しむことができるようにしている。

課外活動としては，ALT が朝の会の時間に各学級に行き，健康観察やミニゲームを行う morning meeting を実施している。また，給食や掃除，休み時間も児童と共に活動することで，児童が進んで ALT と会話し，より英語に慣れ親しむことができるようにしている。

中学校との円滑な接続のため，小学校高学年より Moriya communication challenge や Phonics 学習を行っている。初めは英語に抵抗があった児童も，繰り返すうちに慣れてきて笑顔で会話できるようになり，文字への抵抗もなくなってきている。今後は，中学校との連携をさらに意識し，文字を書くことにも慣れ親しむことができるよう指導法を工夫したい。

(3)　英語で自己を表現できる生徒の育成を目指して【愛宕中学校】

本校では，全教科の学習において「学び合い」を取り入れている。取り組みも３年目となり，生徒たちが互いに「教えて」と言える雰囲気が形成されている。基礎的な課題に，互いに支え合いながら取り組んだり，発展的な課題を，アイディアを寄せ合って解決したりする様子を見ることができる。

英語で自己を表現できる生徒を育成するための input 活動としては，Q&A 活動やリズムに合わせて基本文を定着させる口頭練習に継続的に取り組んできた。

output 活動としては，身の周りのことについて英語で会話をしたり，既習文法を効果的に活用して短い劇を発表したりする活動を取り入れている。ワークシートで自ら会話分析を行ったり，既習の表現の日常生活における活用を楽しみながら学習したりできるよう配慮している。学級で

の Interactive forum においては，技術の差はあるが全ての生徒が自分の考えを表現することができ，今後さらにより自然で論理的な会話を目指していきたいと考えている。

小学校との円滑な接続のため，小学校と統一の教材も取り入れている。Q&A 活動としては，Moriya communication challenge，文字と音声の結びつきについて学ぶために Phonics 学習を継続的に取り扱っている。既習の教材であるために，生徒達は精神的な負担も少なく，自信をもって学習に取り組むことができた。今後は，小学校の授業参観を増やすなどして，さらなる連携を図っていきたい。

情報教育の実践

1　はじめに

昨年度に中学校へタブレット PC や新しい電子黒板が導入されるなど，情報教育のハード面での進歩は著しい。また，各教科でデジタル教科書やスタディーノート，スカイメニューなども整備されソフト面の有効活用が求められている。このような，新しい機器や教材が導入され，各学校では様々な教科，領域で視聴覚機器・教材の活用が図られている。今回はその様子を中心に紹介したい。

2　各校の具体的な取組

(1)　「タブレット端末の活用」【守谷小学校】

守谷小学校では，今後のタブレット端末の本格的導入に備え，タブレット端末を活用した授業を重点的に推進し実践した。

①　一人１台ずつの活用

理科「季節と生き物」では，タブレット端末を一人に１台ずつ使用し，カメラ機能を使って撮影した季節の動植物をタブレット上にまとめ，電子黒板を使って発表するという実践をした。さらに，発表資料をデータベース化し，次の季節の動植物との比較に活用した。また，理科「とじこめた空気や水」では，押し縮められた空気のイメージをタブレット端末の作図機能を使って表現し，電子黒板で発表させた。算数では，一人一人の考えをタブレット端末を使って電子黒板に表示し，電子黒板を使って発表させるという活動をした。

②　グループで１台の活用

算数「がい数」では，各グループで話し合った見積もりの方法をタブレット端末に入力し，電子黒板に表示した。従来の紙に書いたり黒板に書いたりするよりも，時間短縮ができ，比較検討の時間を十分に確保することができた。

③　カメラ機能の活用

タブレット端末のカメラ機能を活用し，児童のノートを電子黒板に表示した。発表時の視覚的効果を高めることで発表者の説明を補助し，聞き手に分かりやすい説明をすることができた。

④　職員研修の実施

タブレット端末の効果的な活用について，上記①～③の研修を実施し，教員の情報機器操作技能の向上を図った。

(2)　「電子黒板を利用した学習指導」【郷州小学校】

昨年度，全学級に設置された電子黒板に対しては，どの学年，学級でも利用頻度が上昇してきた。今年度は，特定の教科のみならず，全教科・領域においても使用されるようになってきている。その中でも利用頻度が高いのは，やはりデジタル教科書のある教科である。国語では，範読をデジタル教科書で行ったり，新出漢字の指導によく使用されてきている。また，算数では，特に図形の学習において実物大の図形が提示でき，それを操作して，平行・垂直などの概念や，拡大・縮小などの概念などがわかりやすくできるようになり，児童にとって理解しやすくなった。実際，単元の評価テストにおいても，その成果が表れるようになってきている。また，プレゼンテーションも，タブレット PC を使用して簡単に行うことができ，時間的にも大変有効であった。

また，デジタル教科書以外のアプリケーションソフトを使用する場合でも，電子黒板の画面上で操作できるため，その便利さが際立っている。社会科では，これまで地図を提示するためには，大型の地図や立体模型を利用することが多かったが，今ではインターネット上で公開されている地図をすぐに入手し，提示できるため，準備に時間がかからず，さらに拡大することが簡単にできるので，教師が説明する以上に理解が容易になった。また，グーグルマップのストリートビューを利用すれば，その場に実際にいるような疑似体験もでき，児童が操作することもできるため，児童の興味関心もいっそう高まるなど，その効果は非常に大きい。今後も，利用できる領域をさらに広げていきたい。

(3)　「ＰＣ室の活用について」【愛宕中学校】

愛宕中ではＰＣ室の活用が週当たり１０時間ある。具体的な内容は以下のようになっている。

中学校では１人１台のタブレットを割り当てることができないため，個々で調べたりまとめたりすることができない。ＰＣ室を活用することで１人１台のＰＣを確保することができ，個々のペースで調べたり，まとめたりすること

１学年	○社会科（地理分野）：調べ学習 ○総合的な学習の時間：守谷市についての調べ学習
２学年	○社会科（地理分野）：調べ学習，郷土検定 ○技術：パワーポイントを使った学校紹介作り ○総合的な学習の時間：職業調べ，上級学校調べ
３学年	○理科：調べ学習 ○技術：プログラムによる計測・制御，ライントレース ○総合的な学習の時間：修学旅行調べ，音楽調べ

ができる。
　どの教科も調べ学習で活用する機会が多い。情報を取捨選択し，自己解決能力を向上させるのに適している。また，視覚的にイメージをもったり，生徒の興味・関心を高めたり，学習課題をより理解させたりすることに効果があると考える。
　コンピュータ室に導入されているスタディーノートに関して研修を行っている。今後，このソフトを活用し，互いに評価しあうスタイルの学習や，読解力，表現力の育成を図るために，電子メールや電子掲示板，データベース機能の活用などの促進をしたいと考える。また，使用する教科の偏りがあるので，気軽に活用できる環境作りをしていきたい。

道徳教育の実践

1　はじめに
　学習指導要領の改正により，「道徳科」が実施され，「考え，議論する道徳科」への質的転換を図ることが謳われている。このことは話合いや討論することを通して，様々な考え方を理解し，児童生徒の道徳性を育んでいくことが重要である。
　愛宕中学校区においては，「学び合い」を取り入れた学習活動の実践を行っている。学び合う学習集団の育成を目指していくことは，社会で必要とされる学力と人間関係づくりの両方を養うことができる。この取組は，文部科学省からも提示されているように児童生徒同士が自分の思いや考えを述べ合うことや議論する道徳活動を実践していくことと相容れるものであり，これから生きていく中で視野を広げたり，自分の考えを深めたりすることに繋がることと考える。

2　愛宕中学校区の具体的な取組
(1) 道徳の時間における学び合いの考え方
　「学び合い」とは，聴き合う関係の中で成り立つ協働学習である。様々な考えをもつ集団の中で，自分の考えを出し合い，課題を解決したり，考えを共有したり，新たな考えを知ったりするものである。学び合いのねらいは，児童生徒一人一人の学びの保障であり，わからないでじっとしている児童生徒をつくらないことにあり，学力向上にある。しかし，それだけではない。「学び合い」により，児童生徒が他者の考えを聴いて，自分の考えを補強したり，発展させたりすることもできるものであり，思いや考え，そして価値を深めることにも繋がるものなので，道徳の時間にも十分，有益なものであると考える。
　学習過程で，児童生徒はまず課題，道徳においての主題やテーマと出会い，自分の考えをもったり，葛藤したりする。そして，「学び合い」によって他者と関わって多様な考えと出会い，自分の考えを再考し発展させたり，友達の考えを取り入れて自らの思考を生み出したりすることができる。一人では解決できない問題も解決へ向かうのである。「学び合い」は，それぞれの学びを深めるために必要不可欠なものであり，一人一人の学びをより高いレベルに導くことができるものなのである。道徳の時間に学び合うことにより，考えを深め，より高い価値に近づけることができるのである。
　このように，道徳の時間において「学び合い」を取り入れることは，議論する道徳を目指すこれからの道徳科にふさわしい学習手法であると考える。
(2) 道徳の時間における学び合いの実践事例
　① テーマ発問での全体学び
　　テーマ発問で担任がコーディネーターになり，子どもたちの話し合いを繋いだ。児童は自分の意見を発言した後，黒板にある心の表示板の気持ちの位置に自分のネームカードを置いていく活動を行った。この「学び合い」では，学級のほぼ全員が意見を言いながらカードを貼ることができた。多くの意見を聴き合い，学び合う場を設定する工夫がなされていた。
　② 中心発問での学び合い
　　中心発問でワークシートを書く活動の際，近くの児童と話し合ってよいことを促した。書くことに抵抗のある児童は，すぐに近くの児童と考えを交換し合っていた。すると，友達に自分の考えを聴いてもらい，意見をもらうと安心してワークシートに向かった。また，ワークシートを書き終わってからも，小グループの学び合いで意見を交換し合わせた。リーダーをつくって話し合い，意見を一つにまとめるグループ学習とは違う学び合いでは，自分と違う意見があることを受け入れながら聴き合う姿が印象的だった。その後，全体で話し合いを行ったが，多くの児童が認められた自分の考えを活発に発表し合っていた。

3　今年度の成果と課題
(1) 「学び合い」に関する合同研修会を行い，理論研修・グループ協議・授業参観を通して，共通理解を図り，各校で「学び合い」を取り入れた授業を実践することができた。
(2) 学び合いにより，人の意見をよく聞いて，自分を振り返ることができた。これは，議論する道徳に少しでも迫れるもので，より深く価値を理解することに繋がるものとなった。
(3) 学び合いの位置付けとその効果をまとめ，より効果的な活用を工夫していきたい。